

修理工事こぼれ話⑥ 楼門化粧隅木に書かれた墨書

楼門の解体後も、引き続き部材を調査しているところですが、様々な部材から墨書が発見されました。

今回は1階屋根の化粧隅木に書かれた墨書を紹介します。

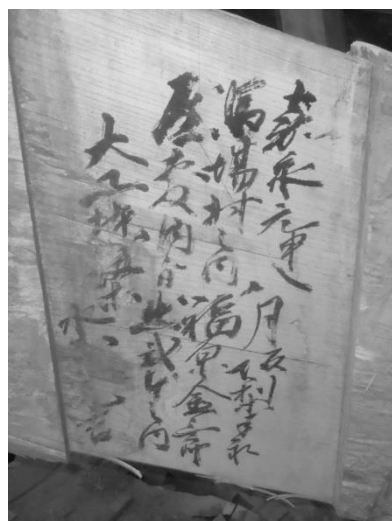
化粧隅木とは、軒を見上げた時に、隅方向に斜めに見える部材です。阿蘇神社の重要文化財建造物の中では、一の神殿、二の神殿、楼門にみられる部材です。曲線を多用している寺社建築の屋根造形は、規矩術（きくじゅつ）と呼ばれる技術を用いて造られますが、化粧隅木はその要となる部材です。

阿蘇神社楼門の1階屋根化粧隅木は、全長が10メートル以上ありますが、軒先から3分の2ほどの位置に2階の隅柱が根元部分で化粧隅木を挟むようにして乗っています。その柱に挟まれていた箇所から墨書が発見されました。

内容は以下の通りとなります。



南東化粧隅木（南より望む）



南東化粧隅木南面の墨書



南東化粧隅木東面の墨書

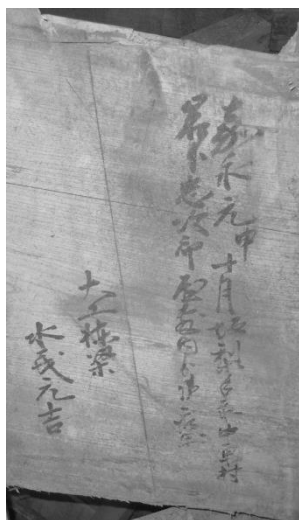


南西化粧隅木南面の墨書

嘉永元申八月
馬場村之内 福原金三郎
屋敷内より出 式本之内
大工棟梁 水民元吉

御造營御用懸
市原弥平
菅儀八郎
江藤傳右衛門
森清五郎
高木仲五郎

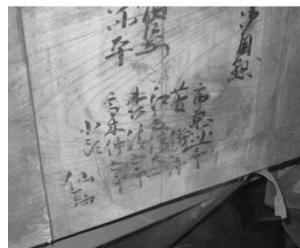
(永)
嘉永元申八月 坂梨手永馬場村
之内 福原金三郎屋敷内より
御取出
大工棟梁
水民元吉



北東化粧隅木東面の墨書



北東化粧隅木北面の墨書



北西化粧隅木西面の墨書

墨書のところで折れてしまっています

- | | | |
|--|---|---|
| 嘉永元申十月
坂梨手永中原村
岩下忠次郎屋敷内より御取出
大工棟梁
水民元吉 | 御造營御用懸
熊本手
坂梨順左衛門
林田弥平
市原弥一郎
菅儀八郎
江藤傳右衛門
森清五郎
高木仲五郎
小頭
仙助 | (嘉永元申)
(蘇)
□永□□七月 坊中阿□山行者
(二行目破損著しく判読不可)
(大工)
□□棟梁
水民元吉 |
|--|---|---|

まず年号が書かれ、次に木材を取り出した方の住所と名前が書かれ、その次に大工棟梁である水民元吉の名前が書かれ、その次や背面に「御造營御用懸」という、造営時の関係者の方々の名前が書かれています。

以前に新聞でも紹介されました*が、墨書が書かれている部材が現阿蘇市である坂梨や坊中から調達されたということが推測される内容であり、今までは熊本藩領内から寄付されたという記録はありましたが、このように部材の出所が個別に特定はされてはなかったということで、興味深い発見といえます。

書かれている年号・月は嘉永元年（1848）の7月～10月です。楼門北側懸魚の墨書によると棟上が嘉永2年（1849）4月であるため、部材に墨書が書かれた嘉永元年7月～10月というのは、棟上の半年から9ヶ月前、組立のための材料が揃い今まさに組立が始まろうとしている、もしくは始まった頃といったところでしょうか。

楼門の造営工事開始は、楼門南側懸魚の墨書によると天保14年（1843）6月であり、資金や材料の調達に5年もかかったこととなります。そのような困難を乗り越え完成した阿蘇神社の楼門は、日本三大楼門の名にふさわしい大規模で荘厳な楼門となりました。（石田 陽是）

*熊本日日新聞「阿蘇神社 地元材だった」2018年1月5日付朝刊